

事業報告書

(2022年4月1日～2023年3月31日)

I. 施設の企画・運営・管理事業（静岡市女性会館指定管理事業）

2年を経過しても新型コロナウイルスは収束せず、職員や職員の家族にも感染者が生じた。9月には台風15号による大規模な豪雨災害が発生し、アイセル21も発生日24日は9:00～17:00まで休館となった。しかし、予定した事業はすべて実施し、貸室の利用率も利用者数も少しずつ回復している。

今年度は第4次静岡市男女共同参画行動計画が策定された。指定管理第4期の1年目は、「複合的で困難な問題を抱える人々が孤立することがない地域づくり」をテーマに、さまざまな立場の女性を意識した事業運営に取り組んだ。

1. 男女共同参画推進事業

事業名	内容	実績
講座企画運営事業	21ジャンル49回の講座を実施。	参加者 延べ1,272人 [※] 新規利用者575人 満足度98.9% 理解度97.3%
団体活動支援事業	①開館30周年記念男女共同参画団体活動紹介 ②利用者（講座受講者）アンケート	①17団体 ②回答者 延べ908人
情報収集・発信事業	①Jo-Shizuメンターバンク ②人材紹介 ③情報誌等発行（ほか） ④WEBでの情報発信 ⑤図書コーナー運営	①交流会参加 12人 ②延べ10人 ③延べ5,700部 ④HP 延べ48,635人 ⑤新規226人 貸出冊数17,384点
相談事業	①女性のための総合相談 ②にじいろ電話相談 ③女性のための就職・転職・キャリア相談	①1,889件 内、新規483件（人） ②29件 ③35件
その他事業	①職場体験・インターンシップ ②視察・ヒアリング	①中学生12人、高校生・大学生各4人 ②延べ4回13人

※デートDV防止出前講座1,203人を除く

2. 施設管理運営事業

	開館日数	利用件(区分)数	利用者数	利用率
2022年度	333日	7,064件	61,506人	47.2%
(参考) 2021年度	333日	6,145件	50,182人	41.0%

3. 組織運営

事業名	回数	参加延べ人数
外部研修	22回	49人
内部研修（スーパービジョンは除く）	8回	91人

(2021年度の課題に対して)

- コロナ下の影響は当面続くと予測されるため、引き続き感染防止に配慮した事業運営を行う必要がある。
 - ☞ 7月に第7波が訪れたが、感染が心配される時期には対面とオンラインを併用するなど、十分な感染対策をとるなどして事業を行った。
- 開館して30年が経過し、施設の設備や備品の劣化が進み、修繕不可能なものが増えてきている。
 - ☞ 修繕不可能なものは新たに購入するしかないので、市に予算化してもらうよう早めに伝えた。
- 電気代やガス代の高騰により、今期立てた予算内で収まるか不安。
 - ☞ 光熱費の高騰により、光熱水費の支出が予算を大きく上回った。今年度、超過分については指定管理

料の上乗せで対応できたが、今後も電気・ガス代の高騰が予想される。次年度予算超過分の1割は指定管理者の負担となるため、さらなる省エネに努めたい。

■例年になく新たに採用した職員が多いため、伝えたいことを徐々にマニュアル化する必要がある。

☞ 年度始めにスタートアップ研修として、NPOの成り立ちや職員としての態度など研修を行ったほか、5月には事務事業事故発生を受けてコンプライアンス研修を実施、その他にもSNS運用やクレーム対応などの内部研修を積極的に行うようにした。女性のための相談マニュアルは別事業を通して完成させることができた。

(成果)

- ・感染防止対策を取りながらの事業運営にも慣れ、計画した事業はすべて実施し、貸室を利用休止することもなく、サービスを提供できた。
- ・新規利用者は1,284人、講座受講生の理解度は97.3%と協定の数値目標を上回った。
- ・相談員が2人から3人に増員され、相談時間が9:00からに変更になったことにより、電話相談は74件増加し、未対応件数が7,356件から4,479件と大幅に減少した。
- ・探究学習のサポートや職場体験・インターンシップ、高校や大学へのアウトリーチなど、若い世代に女性会館を知ってもらう機会が増えた。

(課題)

- ・男女共同参画センターの機能強化に関する国の動きにも注目し、NWEC等を活用しながら職員のレベル向上を図る必要がある。
- ・退職や体調不良による休職など、職員に欠員が生じた場合の職員の確保と育成が急務となっている。
- ・電気代やガス代の高騰により、光熱費がどれだけ増加するか算定が困難。省エネに努めるとともに担当課との相談を密にする必要がある。

II. 男女共同参画社会を形成するための講座・研修事業

事業名	実施	内容	実績	備考
①※女性支援者養成講座 (静岡市委託)	11/5～ 2023/2/9	女性特有の困難について理解し、複雑化する女性の悩みを受け止め、適切な相談につなぐことができる支援者を養成(基礎課程はオンライン研修8講座、集合研修4講座を開催、専門課程は集合研修3講座、その内、公開講座を1講座開催)	基礎 36人 専門 48人 公開 32人	新規
②女子中高生のためのプログラミング講座 (共催：NPO法人 Waffle)	8/1	共催事業のため、フォーラムしずおかは広報と集客を担当。女子中高生がWebサイトの制作を体験し、ロールモデルの話を聞くことで、将来の選択肢を広げる。	参加者 11人	新規
③子育てが楽しい両河内に (委託：両河内生涯学習交流館 両河内連合自治会)	①5/16 ②6/13 ③7/28	地域の強み弱み分析をし、困りごと等を整理。最終回には両河内連合自治会長に地域のためにやってみたいことを提案。	参加者 ①9人 ②9人 ③8人	新規
④市政を身近に考える勉強会 (実行委員会形式で開催)	①9/11 ②11/13 ③12/11	女性に市政を身近に考える機会を提供し、選挙の仕組み、市議の仕事、施策の立案等とともに学ぶ。	参加者 ①20人 ②11人 ③10人	新規
⑤育休中に考える 子育てしながら働く私のマネー&キャリアプラン (掛川市委託)	2/10	職場復帰後の働き方をどうするか、ライフイベントから考え、長期的なキャリアプランを描く。育休復帰に対する不安をワークショップで共有し、両立のヒントを得て、不安を払拭する。	参加者 15人	新規

※は後述する『女性支援に関わる人のためのガイドブック』作成業務及び『女性のための総合相談実践マニュアル』作成業務と共に「女性のための支援者養成事業企画運営業務」として静岡市より受託

(成果)

①年度当初、自主事業として立案していた事業だが、前年度市に企画提案していた事業が内閣府地域女性活

躍推進交付金事業として採択されることになり、他の業務と共に大きなプロジェクトとして受託。e ラーニングシステムを使ったオンデマンド講座を初めて実施した。回数の多い連続講座にもかかわらず多くの熱心な受講者が集まり、中から相談員1人を採用することができた。

- ②NPO 法人 Waffle との共催。大学生のメンターからマンツーマンでプログラミングを教わることができ、初心者でも講座時間内にウェブサイトを作成することができた。
- ③両河内生涯学習交流館と両河内連合自治会とともに子育て中の女性を対象にした連続講座「子育てが楽しい両河内に」を実施することができた。両河内という高齢化率の高い中山間地で子育て中の女性の切実な声を整理し、最終回には、受講者自身が地域のためにできることを連合自治会長の前で提案した。清水区長にも講座の報告に行くこともでき、いくつかの提案の実現可能性が高まった。
- ④指定管理事業では取り組みにくかった政治分野に関する事業「市政を身近に考える勉強会」を行うことができた。当団体を中心に有志個人が複数名集まり議論を重ね、実行委員会形式で3回連続講座を行った。
- ⑤掛川市より委託。育休中以外の方の参加もあったが、様々な立場からの意見があり、職場復帰に対する不安の共有や子育て情報の交換などができた。

(課題)

- ①初めてのe ラーニングシステムで、受講者がどのように学習し、どの程度理解ができたか把握しきれなかった。すでに何らかの支援経験のある人が多く参加しており、民生委員等身近な支援者となり得る人の参加が少なかった。
- ②オンラインでの開催のため、自宅にPC や Wi-Fi 環境がないと参加できず、プログラミングに関心があっても経済的に困難な家庭だと受講しにくい。対面での実施も検討したが、共催相手の Waffle と条件が折り合わなかった。対面で講座が実施できるよう実施方法を再検討する。
- ④静岡市議会の女性議員は48人中3人(6.3%)であり、市議になりたい女性だけでなく、市議になって欲しい女性を支援していく具体的な方策を次の市議選を見据えて検討する必要がある。
- ⑤委託先(掛川市)からの要望で定員を増やしたものの、託児の受入に制限がかかったため、積極的な広報もできず応募が定員に達しなかった。申込時期と感染症の流行時期が重なり、参加者が申込みを躊躇したのも一因として考えられる。育休復帰をテーマにした場合、託児の受入可能人数が定員であることを伝える。

Ⅲ. 男女共同参画社会を形成するための情報の収集・発信・交流事業

1. 情報収集・発信事業

事業名	実施	内 容	実績	備考
NPO 法人 POPOLO 連携事業	3/17	寄付された食糧の仕分けや生活困窮者への発送準備をするボランティアを通じて、得られた情報を当団体の事業に活かす。	1回	継続
※『女性支援に関わる人のためのガイドブック』作成(静岡市委託)	2月	静岡市からの委託事業。地域で女性支援の輪を広げるために基礎知識と連携先を盛り込んだ冊子を作成。	5,000部	新規
ヌエックフォーラム2022 出展WS 「指定管理者となったNPOが振り返る センターのこれまでとこれから」	12/22	(特非) 男女共同参画ネット尼崎と (特非) 男女共同参画おおたの共催。 ①これまでの報告 ・指定管理が始まった経緯 ・やってきたことの成果 ②現在の取り組み ・求められる事業の変化 ・後継者の育成 ③参加者と一緒に考えるこれから	参加者 25人	新規

2. 交流事業

事業名	実施日	内 容	備考
全国女性会館協議会主催 第66回全国大会（川崎市）	2/4～5	ハイブリット方式 基調講演、情報交換会、分科会等への参加	継続

(成果)

- ・情報収集・発信事業では、静岡市の委託事業として女性支援者養成研修を実施し、地域で女性支援の輪を広げるための基礎知識と連携先を盛り込んだ冊子を年度作成し、市の各種相談窓口や学校養護教諭、全民生委員等に配付できた。
- ・「ヌエックフォーラム2022」に尼崎市、東京都大田区のNPO法人と合同でWS出展することができた。各団体が指定管理者となって20年前後が経過し、それぞれの取り組みを振り返る良い機会となった、行政、研究者、NPO等、さまざまな立場の遠隔地の参加者とグループに分かれ話し合う時間も設け、好評を得た。当団体が企画、当日の進行、機器の操作、アンケート等の取りまとめ役を担うこともできた。

(課題)

- ・「ヌエックフォーラム2022」の合同WS終了後、話し合いはZOOMでは物足りないという意見も多く、対面で合同研修をして情報交換したいという要望が各団体からあった。

IV. 男女共同参画社会を形成するための相談・サポート事業

事業名	実施日	内 容	連携・共催団体	実績	担当
※女性のための総合相談マニュアル作成（静岡市委託）	12～2月	相談室の方針や対応方法について体系化した	—	—	新規
女性相談プラットフォーム運営業務（静岡市委託+自主運営）	毎月第4土曜日	女性のためのほっとスペース「ふらり」の開設 3月のみNPO自主運営	—	参加者延べ140人（うち、3月の7人含む）	継続
サニタリードライブ	通年	生理用品の無償配布 生理用品の寄付等の受け入れ	POLA THE BEAUTY セイキ建設	延べ395人に配付（アウトリーチで302人、ふらりで94人） 寄付2件	継続
定時制高校アウトリーチ事業	中央高校 5/11,25,6/29, 7/13,9/28, 11/9,12/7, 1/25,2/8 静岡高校 6/3,7/7,10/20 12/19,2/2 清水東高校 9/22,11/4, 12/16,1/27	3団体で共催し、中央高校、静岡東高校、静岡高校定時制等食料支援を中心に、高校生の生活をサポートする。	NPO法人POPOLO NPO法人しずおか共育ネット	18回実施	継続 前年度19回実施

食糧支援連携事業	5/26 6/18 7/24 10/1 3/30	シングルペアレント 101 の食料支援をサポートする。困難を抱えている女性の実態を把握し、相談があれば連携先とともに対応。	シングルペアレント 101	5 回	継続 前年度 4 回
修了生支援 (地域デザインカレッジ) 台風 15 号被災者支援	9/26 ～	台風 15 号の発災後、修了生と Zoom での打ち合わせを重ね、被災者支援に協力し、各活動を支えた。	静岡市人材養成塾修了生有志実行委員会	水提供 高齢者のみの 17 世帯 高部地区 の親子 10/15 60 人 他	継続 前年度は 勉強会の 開催
団体支援	随時	静岡学習支援ネットワークの活動をサポート。当団体が持つさまざまな支援情報を大学生に提供すると同時に、随時、大学生の相談にも応じた。プロポーザルへの助言も行った。	—	食糧支援 10 月 プロポーザルへの 助言 3/9 他	継続 随時

(成果)

- ・相談室のマニュアルを作成したことにより、相談員育成の指針となるものが明確となった。
- ・台風 15 号の発災後、被災者に対し様々な支援に取り組む地域デザインカレッジ修了生や静岡学習支援ネットワークなどの要請に応じて、高齢世帯、単身親世帯を中心に被災した世帯への飲料水、食料の配布に協力した。当団体からは生理用品を提供すると同時に相談事業も紹介でき、情報収集もすることができた。

(課題)

- ・繁忙期に相談室マニュアル作成が重なり、業務過多に陥った。今後スタッフ間の業務負担不均衡の是正に取り組みたい。
- ・静岡学習支援ネットワークは、学生代表や事務局メンバーが毎年度変わるため、年度当初に会館利用の規則の周知、事業の紹介などの時間を必ず設けたい。職員と学生の顔の見える関係づくりを心掛けたい。

V. その他

1. 講師派遣・執筆依頼

月日	事業名	依頼元
5/27 6/10 7/1, 15	ママだから考えたいライフプラン (全 5 回中 4 回担当)	西部生涯学習センター
9/20	中部ブロック女性職員意見交換会 「女性会員の拡大についてのワークショップ」	静岡市シルバー人材センター
1/13	総合情報誌『地域防災』2 月号原稿執筆 「わたしの声を地域に活かす～地域防災に男女共同参画の視点を」	一般財団法人 日本防火・防災協会

業務に差し支えない範囲で、理事や職員が講師等の依頼を受けた事業は以下のとおり。

月日	事業名	依頼元
4/16	2021年度 市民公益活動事業費補助金報告会	焼津市
5/28	シンポジウム「このままでいいの？地域防災の未来」	市民有志「女性も担う静岡の地域防災」
6/18	2022年度 市民公益活動事業費補助金審査会	焼津市
7/5	石川県男女共同参画推進員啓発力向上講座	石川県
8/24, 25	あすばる 男女共同参画担当職員研修	福岡県男女共同参画センター
8/25～9/16	地域における男女共同参画推進のための事業企画研修	国立女性教育会館
11/2	静岡の市民活動	静岡県立大学地域・産学連携推進室
11/2	シンポジウム「大人の女が学ぶということ」	認定 NPO 法人 WAN
11/11	静岡東高校探求学習中間発表	特非) しずおか共育ネット
12/18	男女共同参画事業の展開を知る	特非) 男女共同参画ネット尼崎

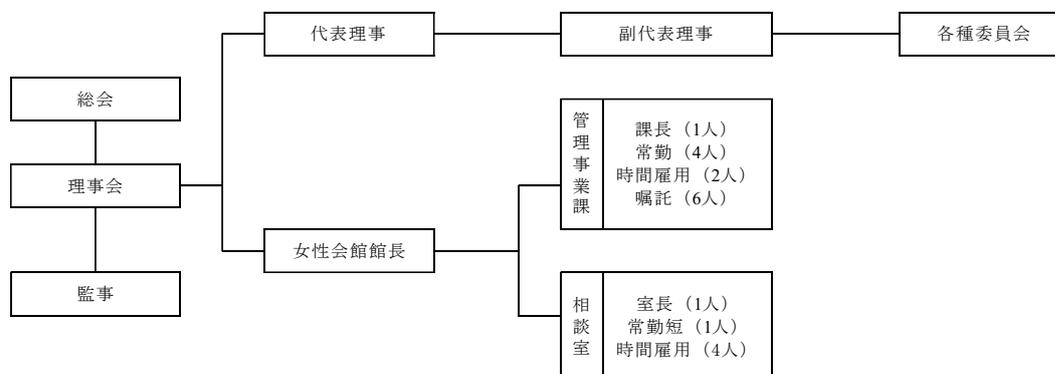
VI. 組織部門

1. 会員

2022年度の正会員は19人、賛助会員は10人。

2. 役員及び職員

2022年5月末に現役員の任期が満了となるため、年度末に各理事に重任の可否の確認を行った。世代交代を念頭に新理事候補も探すよう努めた。



3. 総会

開催日時	名称	正会員数	出席者数	書面評決書提出	委任状提出
5/29 10:00～11:30	第18期通常総会	19人	8人	7人	3人

4. 理事会

回	開催日	主な審議事項	参加理事人数	参加監事人数
第1回	5/20	①総会に付議すべき事項（議案の確認）について ②2022年度の事業計画と予算について ③役員の改選について ④コンプライアンス基本方針について	9人	2人

第2回	6/1	①代表理事、副代表理事の互選について	7人	1人
第3回	10/14	①予算の執行状況及び変更 ②コンプライアンス基本方針について ③来年度以降の体制 ④その他	9人	1人
第4回	2/23	①来年度からの館長候補について ②事務局長の仕事と処遇について	8人	1人

(成果)

- ・2022年度も理事会はウェブ会議とし、4回の理事会を開催した。新しい理事を迎え、次年度に向けて今後の組織を見直すことができた。定款に記載され懸案であった事務局長を次年度に置くことが決まった。

(課題)

- ・NPO事業への賛同者、ともに活動してくれる人を増やす方向を話し合う時間が取れなかった。

5. 事務所移転

2022年12月28日にこれまでの水落事務所から巴町事務所（葵区巴町43-1）に移転した。